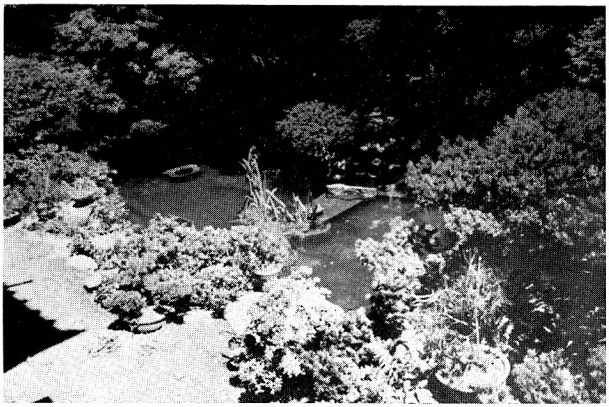
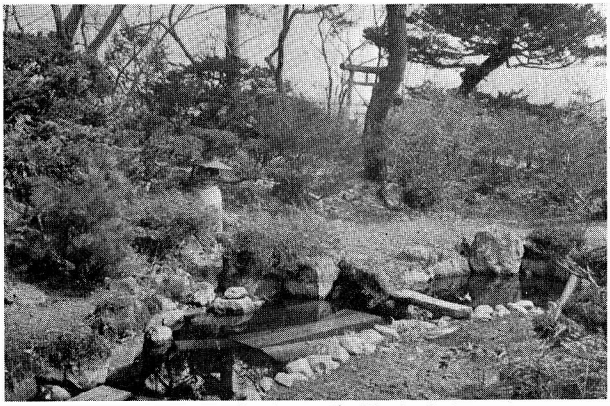
いるものはある。多くは、各部落に一、二戸残る肝煎屋敷、俗におやかっちあまなどと呼んでいた屋敷で、館堀といった堀を屋敷周囲にめぐらしたのが多かった。今は北会津村の区域よりはずれたが、村の発達としては密接な関係のある旧橋爪組上荒井村の館跡には、現在田圃になっているが、周囲に見事な館堀と土堤の跡が残っている。明治末から大正時代にかけて、村中の道路改修などで、現在は館堀の多くは埋められている。



石原の小堀遠州流旧肝煎宅の築山



金屋肝煎宅の遠州流庭園

この屋敷にもう一つ目立つのは俗に築山・泉水などの築造されていることである。武家屋敷の模倣にちがいないが会津藩の庭園様式でとり入れていた小堀遠州流などによるものが多いようである。

会津地方は冬の西北の卓越風が強く、特に雪深い地方であるから、集村で村中の家はいくらか薄いようであるが、西と、北側に屋敷木を植えて冬はこれに細木を結びつけ、葦や萱をたてて、風やらい、